



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第130回「GDP統計 2026年4～6月期(2次速報)について」

9月8日に内閣府より2026年4～6月期GDP速報の2次速報値が発表されました。今週は、この統計について見ていきます。

～2026年4～6月期(2次速報)～

2次速報ではGDP成長率は名目（物価込み）、実質（物価の影響を除く）ともに上方修正されました。発表された内容を確認してみましょう。裏面表1をご覧ください。名目GDP成長率は前期比で+1.3%（1次速報比：+0.1%ポイント（Pt））、前期比年率で+5.5%（同：+0.7%Pt）、実質GDP成長率は前期比で+0.4%（同：+0.1%Pt）、前期比年率で+1.4%（同：+0.3%Pt）となり、名目および実質GDP成長率はともに上方修正されました。この要因を項目別で見ると、①民間企業設備が名目で1次速報比+0.4%Pt、実質で+0.3%Pt上方修正されたこと、②政府最終消費支出が名目、実質ともに1次速報比+0.1%Pt上方修正されたこと、③財貨・サービスの輸入が名目は1次速報比で変わらずでしたが、実質は1次速報値から▲0.2%Pt下方修正されたこと（輸入はGDPの計算から差し引くためマイナスになれば経済成長率の押し上げ要因となります。）の3点が、GDP全体の成長率を押し上げる方向に働いています。

この結果、2026年4～6月期の名目GDPの実額（年率換算）は689兆2,191億円となり、これまでの最高額となりました。

～名目GDPと株価～

名目GDPと株価の関係を見てみましょう。裏面グラフ1をご覧ください。赤色の折れ線グラフは名目GDPの実額の推移（左目盛り）を、緑色の折れ線グラフはTOPIX（東証株価指数）の四半期末の推移（右目盛り）を示しています。期間は1995年1～3月期から直近（2026年4～6月期）までです。このグラフを見れば、名目GDPとTOPIXは同じ方向に動いていることが分かります。特に2022年頃から名目GDPの伸びが顕著になっていますが、この動きに同調するようにTOPIXは大きく上昇してきました。この時期に勃発したロシアのウクライナ侵攻によってエネルギー価格や食料価格が上昇し、日本国内の物価が上昇し始めた時期と一致しています。

なぜ名目GDPと株価が同じ方向で動くのでしょうか？

それは、ロシアのウクライナ侵攻などの外的なショックによって、日本経済は長いデフレ経済からインフレ的な経済へ転換し始め、モノの値段が上昇してきています。この物価上昇によって企業の売上高が名目ベースで押し上げられ、企業業績や株価にも影響を与えてきたと考えられます。今後も権威主義と民主主義の覇権争いによる世界の分断や地政学リスクの増大によって、エネルギー価格や食料価格の上昇は続くと考えられ、物価込みの名目GDPは拡大していくことが想定されます。そのためTOPIXは企業業績を織り込みながら右肩上がりの動きを続けていく可能性が高いと考えています。株価動向の先行きを占うために、これからもGDP統計の動きを詳細に見ていく所存です。

来週25日のウィークリーレターは、シルバーウィークの連休のため、休刊とさせていただきます。
次回は10月2日に発刊させていただきますので、引き続きご愛読いただきますよう宜しくお願いいたします。

表1

2026年4～6月期 GDP成長率2次速報値(前期比)

単位(%)

	名目	実質
GDP	+1.3(+0.1)	+0.4(+0.1)
GDP(前期比年率)	+5.5(+0.7)	+1.4(+0.3)
《民間需要》		
民間最終消費支出	+1.0(±0.0)	0.0(±0.0)
民間企業設備	+0.5(+0.4)	▲0.9(+0.3)
民間住宅	+0.8(▲0.2)	▲0.6(▲0.1)
《公的需要》		
政府最終消費支出	+2.7(+0.1)	+1.7(+0.1)
公的固定資本形成	+1.0(▲0.3)	▲0.5(▲0.4)
《輸出入》		
財貨・サービスの輸出	+3.9(±0.0)	+0.4(▲0.1)
財貨・サービスの輸入	+3.3(±0.0)	▲1.7(▲0.2)

名目、実質ともに数値は季節調整済、()内は1次速報値との比較、(▲はマイナス)

(内閣府「2026年4～6月期 GDP統計より西村証券作成」)

